

## 令和元年度

### 恵庭市立恵明中学校自己評価・学校関係者評価書

校長名	北村 安雄
作成日	令和2年2月5日

#### 1. 学校の教育目標&校訓

##### 恵明中学校教育目標

自ら考え、自ら学ぶ生徒  
進んで活動し、高め合う生徒  
生命を大切にし、思いやりのある生徒 (平成9年制定)

校訓 「自己を愛しめ」 (昭和50年2月26日制定)

#### 2. 令和元年度重点教育目標と身に付けさせたい資質・能力

##### 【重点教育目標】

主体的に考え、適切な表現ができる生徒の育成



##### 【育成すべき資質・能力等】

- ① 見通しをもち、質の高い振り返りができる。
- ② 目的やねらいを理解して行動できる。
- ③ よく聞いて、自分の考えを深められる。

#### 3. 学校経営の基本方針

- ① 全教職員の経営参画や協働体制、同僚性の発揮のもとに、組織としてのマネジメント機能を生かした機能的な学校運営に努める。
- ② 生徒一人一人が自ら、現在及び将来における自己実現を図ることができるよう、教育活動全体を通じて生徒指導の機能を生かしたきめ細かな指導の充実に努める。
- ③ 「生きる力」の要素となる確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランスよく育むため、各種調査結果を活用しながら、教育課程及び教育活動の改善・充実に努める。
- ④ 教育改革の動向を見据え、教職員としての識見と実践的指導力を高める研究・研修活動の充実に努めるとともに、将来の学校教育の中核を担う人材の育成に努める。
- ⑤ 家庭や地域との連携の促進や、双方向にかかわる教育活動を充実させるなど、地域と共にある学校づくりに努める。

※「4. 自己評価・学校関係者評価の結果と改善の方策」について、  
学校評議委員、関係者の皆さんよりご意見をいただきたいと思ひます。

☆「取り組みの適切さ」「自己評価結果の適切さ」について。  
A…適切である。B…まあまあ適切である。C…あまり適切ではない。D…全く適切ではない。

4. 自己評価・学校関係者評価の結果と改善の方策

自己評価の結果				学校関係者評価の結果	
大項目	評価項目	達成状況	取組の適切さ	自己評価結果の適切	自己評価項目、取組の適切さ、自己評価の結果に基づく改善の方策等についての意見等
	小項目				
Ⅰ 信頼される学校づくりの推進	① 学校力の向上と人材育成を推進する。	3.3	A	A	・評価は適切に行われている。
	② 社会に開かれた教育課程を創造する。	3.4	A		
	③ 全ての教育の基盤となる学年・学級経営を充実させる。	3.2	A		
	④ キャリアステージに応じた研修活動を充実させ、教職員の専門性を高める。	3.4	A		
	⑤ 生徒・教職員の生命と学校財産を守る危機管理を徹底する。	3.1	B		
	⑥ 生徒個々の教育的ニーズに応じた組織的な特別支援教育を推進する。	3.2	B		
	自己評価に基づく改善の方策(次年度の取組)				
1) 教職員間のコミュニケーションの一層の充実と、組織的な取組の充実。 2) 次期学習指導要領完全実施に向けた教育課程の編成、地域の教育資源の活用。 3) 保護者・地域と協力・協同による生徒の育成。 4) 組織的・計画的な育成・研修体制の構築。 5) 合理的配慮の共通理解など、コーディネーターを中心とした研修の充実。生徒同士の交流の拡充。				・若手が育ち、ベテランも伸びる人事育成の取組を進めてほしい。 ・学校として、生徒の成長を促す教育課程を編成してほしい。学校関係者としても学校の取り組みに協力していきたい。 ・小中連携の推進により、1年生からより生徒に寄り添う指導が図られるとよい。	
Ⅱ 確かな学力を育む教育活動の推進	① 組織的な改善充実を図る教科指導体制を構築する。	3.3	A	A	・評価は適切に行われている。(先生方が、分かる授業に努めていると思います)
	② 質の高い学びと学習習慣の定着を図る。	3.1	B		
	③ 豊かな感性や表現力を育む読書活動を推進する。	3.7	A		
	自己評価に基づく改善の方策(次年度の取組)				
1) カリキュラムマネジメント会議等で客観的データに基づく改善サイクルによる持続的な授業改善。 2) 小中連携による家庭学習指導の充実。				・「黄金ふれあいセンター」や「えにあす」などでも学習している生徒を見かける。 ・黄金ふれあいセンターや大学等との連携し学力向上に努めてほしい。 ・学力支援とともに生活支援などの支援も学校だけでなく教育・福祉などと連携して取り組んでいくことが必要だと思われる。 ・電子黒板も有効に活用して、生徒にとってわかりやすい授業を進めてほしい。	
Ⅲ 豊かな心を育む教育活動の推進	① 生徒一人一人の自己実現を図る、生徒指導の充実を図る。	3.2	A	A	・評価は適切に行われている。
	② よりよく生きる力を育む道徳教育の充実を図る。	3.6	A		
	③ 社会的、職業的自立を促すキャリア教育を推進する。	3.3	B		
	自己評価に基づく改善の方策(次年度の取組)				
1) 「寄り添い、向き合う指導」など、自己実現に向け、生徒一人一人の状況や心情に応じた、組織的できめ細かな生徒指導。 2) 全教職員による、道徳教育の充実。 3) 学校図書館を活用した授業実践の充実。				・自身の将来の生き方を考えさせるキャリア教育は、中学生のにとっては難しいと感じる。 ・自身の将来像などは、生徒が梯子を上った時に見えるもの、それぞれの成長に合わせた取	

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取り組みを進めていくことができればよい。</li> <li>・ 職業体験やボランティア活動等を通して生き方をや役割を考えさせることが大切である。</li> <li>・ 優しい豊かな心を育てるために、きめ細かい生徒指導を今後も継続してほしい。</li> <li>・ 保護者の希望の多い、道徳教育をより充実させてほしい。</li> </ul>		
Ⅳ 健やかな体を育む教育活動の推進	① 体力・運動能力の向上と体育の質の向上を図る。	3.3	B	A	・ 評価は適切に行われている。	
	② 健康安全教育の充実を図る。	3.3	B			
	自己評価に基づく改善の方策(次年度の取組)			改善の方策を進める上での工夫(委員の意見等)		
	1) 体力テストの全学年実施、経年変化の分析による、体力向上に向けた取組の充実。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年や個々の成長に合わせた体力向上を進めてほしい。</li> <li>・ SNS等の指導は必要である。</li> <li>・ 心身のバランスを考えた取り組みを充実させてほしい。</li> </ul>	
	2) 各種便りやHP等を利用した啓発活動の充実					
Ⅴ 教育活動の効果を高める環境整備の推進	① 落ち着いた学校生活を送るための環境等の美化、整理整頓を徹底する。	3.3	A	A	・ 評価は適切に行われている。	
	② 教育活動を支える経理事務を適切に執行する。	3.4	B			
	自己評価に基づく改善の方策(次年度の取組)			改善の方策を進める上での工夫(委員の意見等)		
	1) フラワーロード・花壇、クリーンウォーキング生徒の作品等、校内外の美化活動の充実。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校配分予算など限られていると思う。効果的な執行はいつの時代でも必要なこと。厳し中と思うが工夫して進めてほしい。</li> <li>・ 給食費等の現金事故が発生しないよう、複数対応を徹底していくことが重要である。</li> </ul>	
	2) 地域や文教大学との連携強化、CSを活用した地域の教育資源を生かした教育活動の充実。					
	3) 学校の課題を整理し、優先順位を明確にした予算要望の実施					
Ⅵ 今日的な課題への対応	① 教育の質の向上を目指す働き方改革の推進と育成指標の活用を図る	2.8	C	A	・ 評価は適切に行われている。 (実情を考えると、大変難しい課題であると感じる。)	
	自己評価に基づく改善の方策(次年度の取組)			改善の方策を進める上での工夫(委員の意見等)		
		1) 子どもたちにとって、より意義のある教育課程の編成。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務内容が減らない中、時間だけで進めると結局持ち帰り仕事が増えることになる。</li> <li>・ 他の職種でも敬遠される傾向がみられるが、学校の教員はどうか心配である。</li> <li>・ 仕事が偏らないような配慮も必要である。</li> <li>・ 学校単位での取り組みでは限界があると感じる。部活動では大会の回数や、外部指導者の制度確立など多くの課題もあると思う。</li> <li>・ 今後CS(コミュニテースクール)の実施などあるが、先生にとって負担になりすぎないような取り組みを進めてほしい。</li> </ul>
	2) 働き方改革にも配慮した教育課程の編成。					
	3) 会議・研修等の効率的な見直し。					